

## エゼキエル書44-48章「王なる祭司の国」

### アウトライン

#### 1A 君主の礼拝 44-46

##### 1B 祭司の務め 44

1C 閉じられた東向きの外門 1-3

2C 聖所に入れない者たち 4-14

3C 奉仕の規定 15-31

##### 2B 主への奉納 45

1C 奉納地 1-8

2C 奉納物 9-17

3C 二大祭り 18-25

##### 3B ささげ物 46

1C 君主と民による礼拝 1-15

2C 奪えない所有地 16-18

3C 動物のいけにえの調理 19-24

#### 2A イスラエルの相続地 47-48

##### 1B 広がり 47

1C 神殿からの水 1-12

2C 境界線 13-23

##### 2B 割り当て 48

1C 十二部族 1-29

2C 町 - 「主はここにおられる」 30-35

### 本文

私たちはついに、エゼキエル書最後の5章を読みます。私たちは前回、神の国における神殿の中身を読んでいきました。そこに、主の栄光が東向きの門から戻ってきました。そして、これからはイスラエルの君主が、この神殿において礼拝を捧げるところを見ていきます。さらに、祭司たちが主に仕える働きについて見ていきます。主は、エレミヤ書において、神の義が確立する時に、レビ人の祭司たちがいけにえを捧げることが回復されること、またダビデと結んだ契約、つまりイスラエルを治める者たちがダビデの子孫から出てくることを預言していました(33:17-22)。覚えていますが、ダビデはこよなく礼拝を愛しました。王、治める者自身が、主なる神に礼拝を捧げることによって、イスラエルの国が神に支配されている状態になる、つまり神の国になっています。

私たちには、二つの課題があります。私たちが誰に支配されているのか？だれが、王となっているか？ということです。自分で自分を治めているのか、それともイエス様を主として、この方の支配を受けながら生きているか？ということです。そして、誰に仕えているか？ということです。人は誰かに仕えています。自分の欲に仕えているのか、それとも神に仕えているのか？ということでもあります。エゼキエル書の最後の5章は、真実な人間の姿をいけにえを捧げる君主の姿を通して見ることができます。

### **1A 君主の礼拝 44-46**

#### **1B 祭司の務め 44**

#### **1C 閉じられた東向きの外門 1-3**

44:1 彼が私を聖所の東向きの外の門に連れ戻ると、門は閉じていた。44:2 主は私に仰せられた。「この門は閉じたままにしておけ。あけてはならない。だれもここからはいってはならない。イスラエルの神、主がここからはいられたからだ。これは閉じたままにしておかなければならない。44:3 ただ、君主だけが、君主として主の前でパンを食べるためにそこにすわることができる。彼は門の玄関の間を歩いてはいい、またそこを歩いて出て行かなければならない。」

43章において、祭壇を清める儀式についての教えがありました。そして、これからいけにえを捧げることができるのですが、その礼拝の中心人物はここにある君主です。君主のみが、主の栄光がいった東向きの外の門から入り、主の前のパンを食べることができます。この君主が誰であるか？で意見がわかれます。エゼキエル 34章 24-25節において、「主であるわたしが彼らの神となり、わたしのしもべダビデを起こす。…主であるわたしが彼らの神となり、わたしのしもべダビデはあなたがたの間で君主となる。」とあります。主のしもべでありながら、かつ主ご自身であるというのがここでの預言です。かつてのダビデは、礼拝を愛する王でありました。君主であるダビデが、まことの王である神をあがめることによって、イスラエルは神が治める国となり、ダビデの世継ぎの子がとこしえにイスラエルの国を治めるという約束が与えられていました。この方がイエス・キリストです。そして、これまでダビデの子孫がダビデのように歩んでいなかったという失敗をふまえて、この方が確かにダビデのように、いやそれ以上に歩まれ、将来もそのようになされるのだという約束がここにあります。これまでの失敗したイスラエルの君主たちの跡を踏み直していく約束です。

#### **2C 聖所に入れない者たち 4-14**

44:4 彼は私を、北の門を歩いて神殿の前に連れて行った。私が見ると、なんと、主の栄光が主の神殿に満ちていた。そこで、私はひれ伏した。44:5 すると主は私に仰せられた。「人の子よ。主の宮のすべての定めとそのすべての律法について、わたしがあなたに告げていることをことごとく心に留め、それに目を注ぎ、耳を傾けよ。宮にはいれる者と、聖所には入れないすべての者を心に留めよ。44:6 あなたは、反逆の家、イスラエルの家にこう言え。神である主はこう仰せられる。イスラエルの家よ。あなたがたのあらゆる忌みきらうべきわざは、もうたくさんだ。44:7 あなたがた

は、心にも肉体にも割礼を受けていない外国人を連れて来て、わたしの聖所におらせ、わたしの宮を汚した。あなたがたは、わたしのパンと脂肪と血とをささげたが、あなたがたのすべての忌みきらうべきわざによって、わたしとの契約を破った。44:8 あなたがたは、わたしの聖所での任務も果たさず、かえって、自分たちの代わりにわたしの聖所で任務を果たす者たちを置いた。44:9 神である主はこう仰せられる。心にも肉体にも割礼を受けていない外国人は、だれもわたしの聖所にはいってはならない。イスラエル人の中にいる外国人はみなそうだ。44:10 レビ人でも、イスラエルが迷って自分たちの偶像を慕って、わたしから迷い出たとき、わたしを捨て去ったので、彼らは自分たちの咎を負わなければならない。44:11 彼らは宮の門で番をし、宮で奉仕をして、わたしの聖所で仕えるはずなのだ。彼らは民のために、全焼のいけにえや、ほかのいけにえをほふり、民に仕えて彼らに奉仕しなければならない。44:12 それなのにレビ人たちは、民の偶像の前で民に仕え、イスラエルの家を不義に引き込んだ。それゆえ、わたしは彼らに誓う。・・神である主の御告げ。・・彼らは自分たちの咎を負わなければならない。44:13 彼らは、祭司としてわたしに仕えるために、わたしに近づいてはならない。わたしのあらゆる聖なる物、または最も聖なる物に触れてはならない。彼らは自分たちの恥と自分たちの行なった忌みきらうべきわざの責めとを負わなければならない。44:14 わたしは彼らに、宮のあらゆる奉仕とそこで行なわれるすべての宮の任務を果たさせる。

主は、これから犠牲のいけにえの制度を回復させるにあたって、これまで彼らが行ってきた忌み嫌うべきわざを思い起こさせました。自分たちがどこから来たのか、どのような汚れと墮落から、今の主の栄光の恵みにあずかったのかを知らせています。一つは、心にも体にも割礼を受けていない者たちを聖所におらせた、とあります。信仰によって、御霊によって、聖められていない者たちが奉仕することを許した過ちがあります。北イスラエルのヤロブアム王が、レビ人ではない祭司を祭司として勝手に立てました。云わば、主によって召されていない者たち、救われていない者たちが教会の奉仕で中心的な働きをするということです。もう一つの過ちは、レビ人が民の偶像の前で民に仕えた、ということです。金の子牛の前で仕え、その他、エルサレムでもあらゆる偶像が神殿にあり、そこで仕えていました。これは云わば、人々のやりたいこと、欲していることをそのままかかえるために、教会の人たちが仕えるということです。

### 3C 奉仕の規定 15-31

44:15 しかし、イスラエル人が迷ってわたしから離れたときもわたしの聖所の任務を果たした、ツァドクの子孫のレビ人の祭司たちは、わたしに近づいてわたしに仕え、わたしに脂肪と血とをささげてわたしに仕えることができる。・・神である主の御告げ。・・44:16 彼らはわたしの聖所にはいり、わたしの机に近づいてわたしに仕え、わたしへの任務を果たすことができる。

前回学びましたように、ダビデの時代に祭司エブヤタルが、ソロモンの兄アドニヤの謀反に加担したので、ソロモンは彼を祭司職から罷免しました。そしてツァドクとその子孫が祭司の務めを行

います。それを主は御国において回復されます。

44:17 彼らは内庭の門にはいるときには、亜麻布の服を着なければならない。内庭の門、および神殿の中で務めをするときは、毛織り物を身に着けてはならない。44:18 頭には亜麻布のかぶり物をかぶり、腰には亜麻布のももひきをはかなければならない。汗の出るような物を身に着けてはならない。44:19 彼らが外庭に出て、外庭の民のところに出て行くときは、務めのときに着ていた服を脱ぎ、それを聖所の部屋にしまい、ほかの服を着なければならない。その服によって民を聖なるものとしなためである。44:20 彼らは頭をそってはならない。髪を長く伸ばしすぎてもいけない。頭は適当に刈らなければならない。44:21 祭司はだれも、内庭にはいるときには、ぶどう酒を飲んでではない。44:22 やもめや、離婚された女を妻にしてはならない。ただ、イスラエルの民のうちの処女をめとらなければならない。しかし、やもめでも、それが祭司のやもめであれば、めとつてもよい。44:23 彼らは、わたしの民に、聖なるものと俗なるものとの違いを教え、汚れたものときよいものとの区別を教えなければならない。44:24 争いがあるときには、彼らは、わたしの定めに従ってさばきの座に着き、これをさばかなければならない。わたしのすべての例祭には、わたしの律法とおきてとを守り、わたしの安息日を聖別しなければならない。44:25 彼らは、死人に近づいて身を汚してはならない。ただし、自分の父、母、息子、娘、兄弟、未婚の姉妹のためには汚れてもよい。44:26 その場合、その人は、きよめられて後、さらに七日間待たなければならない。44:27 聖所で仕えるために聖所の内庭にはいる日には、彼は罪のためのいけにえをささげなければならない。…神である主の御告げ。…

祭司たちの規定であります。主に仕えるということは、自分を神の聖さの中に保っておかなければいけません。亜麻布の服は、主の前における清さを表しています。汗が出ないものというのは、人の行ないの努力ではない、肉の働きではないということです。髪の毛については、目立たないということ、人の目を引かせないということ。内庭でぶどう酒を飲まないというのは、かつてアロンの息子がこのために判断力が鈍り、異なる火を捧げました。エペソ書には、酒に酔わないで御霊に満たされなさいとあります。そして結婚についての規定は、イエス様も離婚してはならないと言われたとおりです。そして、霊的な判断を争いなどによって行い、それは神の言葉、律法に基づいています。そして死体に触れることについてですが、罪から来る報酬は死であるとあるように、象徴的に、儀式的に死体に触れるということは、罪の中に入ることを示します。それで、家族の中での葬儀に置くことの他は、触れてはいけません。

44:28 これが彼らの相続地となる。わたしが彼らの相続地である。あなたがたはイスラエルの中で彼らに所有地を与えてはならない。わたしが彼らの所有地である。44:29 彼らの食物は、穀物のささげ物、罪のためのいけにえ、罪過のためのいけにえである。イスラエルのうちのすべての献納物は彼らのものである。44:30 あらゆる種類の初物、あなたがたのあらゆる奉納物のうちの最上の奉納物は、すべて祭司たちのものであり、あなたがたの麦粉の初物も祭司に与えなければな

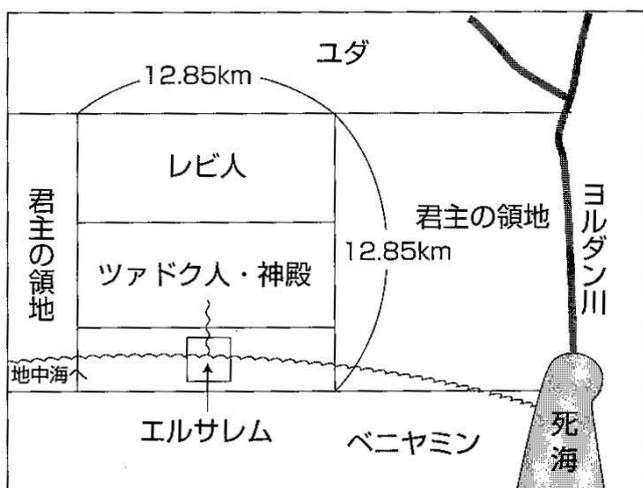
らない。あなたの家に祝福が宿るためである。44:31 祭司たちは、死んだものや裂き殺されたものはすべて、鳥であれ獣であれ、食べてはならない。

これは昔、祭司らに対して主が約束されたことと同じです。「レビ族」や「アロン氏族」に対する相続地というのは存在しません。けれども、彼らは一生涯、聖所の中で主に仕えることによって、人々が主に供えるものによって自分たちが支えられます。パウロは、これを福音宣教者に当てはめて、霊に関する事柄に奉仕するものは、物質的なことを支えられるのは権利であることを話しました。しかし、私たちは全てが祭司です。職場にいても、家庭にいても、そこが聖なる場であり、主人に仕えることは、神ご自身に仕えることです。そしてすべてのこと、生活の糧が神からきます。

## 2B 主への奉納 45

### 1C 奉納地 1-8

45:1 あなたがたがその地を相続地として、くじで分けるとき、その地の聖なる区域を奉納地として主にささげなければならない。その長さは二万五千キュビト、幅は一万キュビト。その周囲の全域は聖なる地である。45:2 このうち、縦横五百キュビトの正方形を聖所に当て、その回りを五十キュビトの空地にしなければならない。45:3 先に測った区域から、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトを測れ。そして、その中に聖なる至聖所があるようにせよ。45:4 これは国の聖なる所である。これは、聖所で仕え、主に近づいて仕える祭司たちのものとしなければならない。ここを彼らの家の敷地とし、聖所のために聖別しなければならない。45:5 また、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトの地は、宮で奉仕をするレビ人のものとし、二十の部屋を彼らの所有としなければならない。45:6 聖なる奉納地に沿って、幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトを町の所有とし、これをイスラエルの全家のものとする。45:7 君主の土地は、聖なる奉納地と町の所有地との両側にあり、聖



なる奉納地と町の所有地に面し、西側は西のほうへ、東側は東のほうへ延びている。その長さは一つの部族の割り当て地と同じで、この国の西の境界線から東の境界線にまで及んでいる。45:8 これがイスラエルの中の彼の所有地である。わたしの君主たちは、二度とわたしの民をしいたげることなく、この地は部族ごとに、イスラエルの家に与えられる。

かつて、イスラエルは荒野の旅で、主の幕屋を中心にしてそれを取り囲んで宿営していました。主はアブラハムに約束されたとおり、イスラエルに相続地を与えられますが、聖所を中心とする位置に置かれます。長方形の祭司たちの土地があります。長さ二万五千キュビトは約 13 キロメートル、幅一万キュビトは約 5.2 キロメートル

です。中央に、前回 40 章から 43 章までで読んだ正方形の外壁に囲まれた神殿の敷地があります。その周囲にさらに 50 キュビトずつの空地があります。

レビ人のための地が一番上に来ます。聖なる奉納地が真ん中に来るでしょう。そして、最後に出てくイスラエル全家のための土地があります。この三つを合わせると、長さ幅が同じ正方形になります。そして大事なのは、その両側に、君主の土地があるということです。君主は、その生活の中心が礼拝そのものなのだ、ということです。

### 2C 奉納物 9-17

45:9 神である主はこう仰せられる。イスラエルの君主たちよ。もうたくさんだ。暴虐と暴行を取り除き、公義と正義とを行なえ。わたしの民を重税で追い立てることをやめよ。・・神である主の御告げ。・・45:10 正しいはかり、正しいエパ、正しいバテを使え。45:11 エパとバテとを同一量にせよ。バテはホメルの十分の一、エパもホメルの十分の一とせよ。その量はホメルを単位とせよ。45:12 シェケルは二十ゲラである。二十シェケルと二十五シェケルと十五シェケルとで一ミナとせよ。45:13 あなたがたがささげる奉納物は次のとおりである。小麦一ホメルから六分の一エパ、大麦一ホメルから六分の一エパをささげ、45:14 油の単位により、油のバテで、一コルから十分の一バテをささげよ。一コルは一ホメルと同じく十バテである。45:15 また、イスラエルの潤った地の羊の群れから二百頭ごとに一頭の羊を、ささげ物、全焼のいけにえ、和解のいけにえのためにささげ、彼らのための贖いとせよ。・・神である主の御告げ。・・45:16 国のすべての民に、この奉納物をイスラエルの君主に納めさせよ。45:17 君主は、祭りの日、新月の祭り、安息日、すなわちイスラエルの家のあらゆる例祭に、全焼のいけにえ、穀物のささげ物、注ぎのぶどう酒を供える義務がある。彼はイスラエルの家の贖いのため、罪のためのいけにえ、穀物のささげ物、全焼のいけにえ、和解のいけにえをささげなければならない。

主はこれまでの君主たちによる、不正を戒めておられます。今、正義なる主ご自身が君主となっている中で、自分たちがいかに量りをごまかしていたのか、つまり公正に拠らずに裁いてきたのかを思い起こさせています。パウロは、私たちが十字架に付けられている、ということを明確に言っていましたが、私たちが過去に対して、きちんと罪を犯したのだということを直視していなければ、今の新たな生活を歩むことはできません。ところで量りですが、「エパ」は穀物の計量、「バテ」は液状のものの計量です。どちらも 23 リットルで「ホメル」は 230 リットルです。「シェケル」は貴金属の重量ですが 11.4 グラムで、「ゲラ」は 0.57 グラムです。そして「ミナ」は 570 グラムです。そして、君主が代表して主の前に捧げ物をするために、イスラエル十二部族が君主に納めます。君主が人々に仕えられるために、捧げをもらうのではなく、彼が神に仕えることができるように、人々が捧げ物をします。

### 3C 二大祭り 18-25

45:18 神である主はこう仰せられる。第一の月の第一日に、あなたは傷のない若い雄牛を取り、聖所をきよめなければならない。45:19 祭司は罪のためのいけにえから、血を取り、それを宮の戸口の柱や、祭壇の台座の四隅や、内庭の門の脇柱に塗らなければならない。45:20 その月の七日にも、あなたは、あやまって罪を犯した者やわきまえない者のためにこのようにし、宮のために贖いをしなければならない。45:21 第一の月の十四日に、あなたがたは過越の祭りを守り、その祭りの七日間、種を入れないパンを食べなければならない。45:22 その日に君主は、自分のためと国のすべての民のために、罪のためのいけにえとして雄牛をささげなければならない。45:23 その祭りの七日間、彼は全焼のいけにえとして傷のない七頭の雄牛と七頭の雄羊を、七日間、毎日、主にささげなければならない。また一頭の雄やぎを、罪のためのいけにえとして、毎日ささげなければならない。45:24 穀物のささげ物は、雄牛一頭に一エパ、雄羊一頭に一エパをささげなければならない。油は一エパごとに一ヒンとする。45:25 第七の月の十五日の祭りにも、七日間、これと同じようにささげなければならない。すなわち、罪のためのいけにえ、全焼のいけにえ、穀物のささげ物、それに油を、同じようにささげなければならない。

主は君主をご自分の前に立たせる代表として、過越の祭りを行なわせます。第一の月の十四日が過越の祭りですが、一日目から入念にエゼキエルに対して、つまり祭司に対して準備をさせ、十四日から七日間は種なしパンの祝いを君主ができるようにさせます。22 節に、君主が自分のためとすべての民の罪のためのいけにえを捧げるとありますが、これは、キリストには罪はありませんが、罪を負われた方としてお捧げになります。過越の祭りも、種無しパンの祝いも、それぞれ、キリストによる罪の贖い、罪が取り除かれた後の状態を示しています。

### 3B ささげ物 46

#### 1C 君主と民による礼拝 1-15

46:1 神である主はこう仰せられる。内庭の東向きの門は、労働をする六日間は閉じておき、安息日と、新月の祭りの日にはあけなければならない。46:2 君主は外側の門の玄関の間を歩いてはいい、門の戸口の柱のそばに立っていないなければならない。祭司たちは彼の全焼のいけにえと、和解のいけにえをささげ、彼は門の敷居のところで礼拝して出て行かななければならない。門は夕暮れまで閉じてはならない。46:3 一般の人々も、安息日と新月の祭りの日には、その門の入口で、主の前に礼拝をしなければならない。46:4 君主が安息日に主にささげる全焼のいけにえは、傷のない子羊六頭と、傷のない雄羊一頭である。46:5 また、穀物のささげ物は、雄羊一頭について一エパ。子羊のためには、彼が与えることのできるだけの穀物のささげ物。油は一エパごとに一ヒンである。46:6 新月の祭りの日には、傷のない若い雄牛一頭と、傷のない子羊六頭と雄羊一頭である。46:7 穀物のささげ物をするために、雄牛一頭に一エパ。雄羊一頭に一エパ。子羊のためには、手に入れることのできただけでよい。油は一エパごとに一ヒンである。46:8 君主がはいるときには、門の玄関の間を歩いてはいい、そこを歩いて出て行かななければならない。46:9 しかし、一

般の人々が例祭の日に主の前には行って来るとき、北の門を通過して礼拝に来る者は南の門を通過して出て行き、南の門を通過しては行って来る者は北の門を通過して出て行かなければならない。自分のは行って来た門を通過して帰ってはならない。その反対側から出て行かなければならない。46:10 君主は、彼らがいるとき、いっしょにはいり、彼らが出るとき、いっしょに出なければならぬ。46:11 祭りと同祭には、穀物のささげ物は、雄牛一頭に一エパ、雄羊一頭に一エパ。子羊のためには与えることのできるだけのもの。油は一エパごとに一ヒンである。46:12 また、君主が、全焼のいけにえを、進んでささげるささげ物として、あるいは和解のいけにえを、進んでささげるささげ物として主にささげるときには、彼のために東向きの門をあけなければならぬ。彼は安息日にささげると同じように、全焼のいけにえと和解のいけにえとをささげなければならぬ。彼が出て行くなら、彼が出て行って後、その門は閉じられる。46:13 あなたは毎日、傷のない一歳の子羊一頭を全焼のいけにえとして、主にささげなければならぬ。これを毎朝ささげなければならぬ。46:14 それに添えて、毎朝、六分の一エパの穀物のささげ物、上等の小麦粉に振りかけるための油三分の一ヒンをささげなければならぬ。これが主への穀物のささげ物であり、永遠に続く定めである。46:15 こうして、子羊や穀物のささげ物や油を、常供の全焼のいけにえとして、毎朝ささげなければならぬ。

過越の祭りの次に、安息日と新月の祭りにおいて、君主と民が共に主に礼拝を捧げる姿がここに書かれています。いけにえは、安息日には雄羊のところを新月の祭りは雄牛になっています。そして君主は、外庭の東の門から入り、内庭の門の入口の玄関のところで礼拝します。一般の民も同じようにします。そして祭りの時には、イスラエルの民も礼拝に加わります。北から南に歩くイスラエルの民がいます。また南から北に歩くイスラエルの民がいます。逆戻りすることはありません。そして君主が、民の礼拝に合わせて自分も礼拝します。

それから、いけにえについての祭司に対する教えがあります。祭司たちは、君主の礼拝に合わせていけにえを捧げ、また東向きの門は開けておいたままにしないといけません。そして、毎日のいけにえ、つまり常供の捧げ物を捧げます。

### 2C 奪えない所有地 16-18

46:16 神である主はこう仰せられる。もし、君主が、贈り物として自分の相続地を自分の息子たちに与えるなら、それは息子たちのものとなり、それは相続地として彼らの所有地となる。46:17 しかし、もし、彼が自分の相続地の一部を贈り物として奴隷のひとりに与えるなら、それは解放の年まで彼のものであるが、その後、それは君主に返される。ただ息子たちだけが、相続地を自分のものとすることができる。46:18 君主は、民の相続地を奪って彼らをその所有地から押し除けてはならない。彼は自分の所有地から自分の息子たちに相続地を与えなければならぬ。それは、わたしの民がひとりでも、その所有地から散らされないためである。」

君主に息子たちがいる、とあります。これは誰なのでしょう？もしかしたら、キリストによってその子孫となったものたち、つまりキリスト者たちかもしれません。イザヤ書 53 章の預言で、人の罪の贖いを成し遂げた後、復活されたキリストについて次の言葉があります。「53:10 しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。」キリストの義を身にまとった人々を、この方の子孫と呼ばれています。そして、その相続ですが、息子たちだけのものとあります。これはかつて、アブラハムがイサクのみに相続を与え、他の子たちには贈り物だけをしたというのと同じ原理です。キリストを信じる者は神の相続人になるという約束です。

### 3C 動物のいけにえの調理 19-24

46:19 それから、彼は私を、門のわきにある出入口から、北向きになっている祭司たちの聖所の部屋に連れて行った。すると、西のほうの隅に一つの場所があった。46:20 彼は私に言った。「ここは祭司たちが、罪過のためのいけにえや、罪のためのいけにえを煮たり、穀物のささげ物を焼いたりする場所である。これらの物を外庭に持ち出して民を聖なるものとしなためである。」46:21 彼は私を外庭に連れ出し、庭の四隅を通らせた。すると庭の隅には、それぞれまた、ほかの庭があった。46:22 庭の四隅に仕切られた庭があり、それは長さ四十キュビト、幅三十キュビトであって、四つともみな同じ寸法であった。46:23 その四つとも、回りは石の壁で囲まれ、石の壁の下のほうには料理場が作られていた。46:24 彼は私に言った。「これは、宮で奉仕をしている者が、民からのいけにえを煮る料理場である。」

祭司たちが肉を食べるところは、至聖所の裏、西の聖域にある建物と、北向きにある祭司たちの聖所の三階建ての部屋の間にある空間におけるものです。そして一般の民がいけにえを煮て食べるための料理場が、外庭の四隅にあります。このようにして、主に捧げたものを食べるという行為そのものが、聖なること、礼拝であるということです。私たちは聖餐の時に僅かな量しか食べませんが、あれは過越の祭りの一場面であり、実際は食事をしているところであります。私たちが主と交わる時に、イエス様はラオデキヤの教会に対して語られたように、共に食事をすると言われています。主のなされたことを、自分のものとして食べるようにして受け入れるのです。

## 2A イスラエルの相続地 47-48

### 1B 広がり 47

これまで、君主の礼拝、それを助ける祭司の務め、民も共に礼拝にあずかるところまでを読むことができました。このように、主なる神を礼拝するところに、つまりこの方に主権を任せ、この方に仕える中で、主はその真ん中から命の水を溢れ出させてくださいます。

### 1C 神殿からの水 1-12

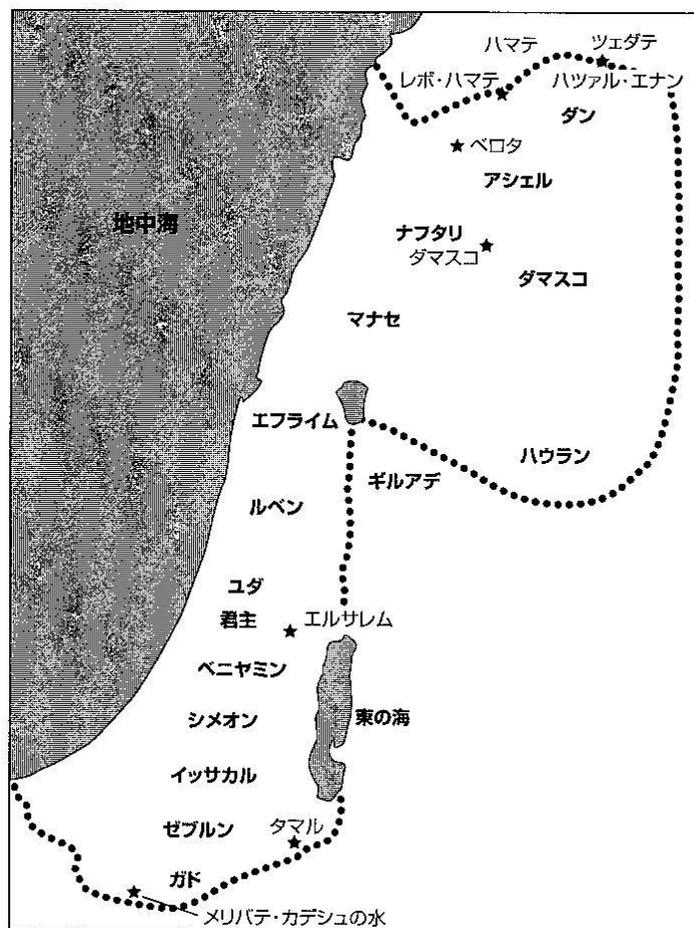
47:1 彼は私を神殿の入口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東のほうへと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、宮の右側の下から流れていた。47:2 ついで、彼は私を北の門から連れ出し、外を回らせ、東向きの外の門に行かせた。見ると、水は右側から流れ出ていた。47:3 その人は手に測りなわを持って東へ出て行き、一千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、それは足首までであった。47:4 彼がさらに一千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、水はひざに達した。彼がさらに一千キュビトを測り、私を渡らせると、水は腰に達した。47:5 彼がさらに一千キュビトを測ると、渡ることでできない川となった。水かさは増し、泳げるほどの水となり、渡ることでできない川となった。47:6 彼は私に、「人の子よ。あなたはこれを見たか。」と言って、私を川の岸に沿って連れ帰った。47:7 私が帰って来て見ると、川の両岸に非常に多くの木があった。47:8 彼は私に言った。「この水は東の地域に流れ、アラバに下り、海にはいる。海に注ぎ込むとその水は良くなる。47:9 この川が流れて行く所はどこでも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水がはいると、その水が良くなるからである。この川がはいる所では、すべてのものが生きる。47:10 漁師たちはそのほとりに住みつき、エン・ゲディからエン・エグライムまで網を引く場所となる。その魚は大海の魚のように種類も数も非常に多くなる。47:11 しかし、その沢と沼とはその水が良くならないで、塩のままで残る。47:12 川のほとり、その両岸には、あらゆる果樹が生長し、その葉も枯れず、実も絶えることがなく、毎月、新しい実をつける。その水が聖所から流れ出ているからである。その実は食物となり、その葉は葉となる。

午前礼拝で学びました。ゼカリヤ書では、神殿からの水はエルサレムの町を通過して、東だけでなく西の地中海にも流れます。けれども、東に流れることに注目しています。創世記 3 章を見れば、アダムとエバは、エデンの園の東から追放され、アベルを殺したカインも東へと放浪しました。その東から主の栄光が入りました。つまり、主は東にある人々の負い目、罪を全て負って、それで救い主となってくださるのです。そして、その東に対して命の水が流れていきます。その東には、死海があります。人の罪があり、そして死が生まれたそのところに、主は命をもたらしてくださるのです。11 節には、沢と沼が出来て、そこは塩で死んだままになっているとあります。水というのは、流れていないといけません。御霊の働きは、流れていないといけません。私たちが絶えず、御霊の満たしを求めなければ、淀でしまうということです。

### 2C 境界線 13-23

47:13 神である主はこう仰せられる。あなたがたがイスラエルの十二の部族にこの国を相続地として与える地域は次のとおりである。ヨセフには二つの分を与える。47:14 あなたがたはそれを等分に割り当てなければならない。それはわたしがかつてあなたがたの先祖に与えると誓ったものである。この地は相続地としてあなたがたのものである。47:15 その地の境界線は次のとおりである。北側は、大海からヘテロンの道を経て、ツェダデの入口に至り、47:16 ハマテ、ペロダ、およ

びダマスコの領土とハマテの領土の間にあるシブライム、さらにハウランの領土に面したハツ



ル・ハティコンに至る。47:17 海から始まる境界線はダマスコの境界のハツアル・エナンに至り、北は北のほうへ、ハマテの境界にまで至る。これが北側である。47:18 東側は、ハウランとダマスコの間と、ギルアデとイスラエルの地の間のヨルダン川が、東の海を経てタマルに至るまでの境界線である。これが東側である。47:19 南側は、タマルから南に向かってメリバテ・カデシュの水と川に至り、大海に至るまでである。これが南側である。47:20 西側は、大海が境界となり、レボ・ハマテにまで至る。これが西側である。47:21 あなたがたは、この地をイスラエルの部族ごとに割り当てなければならない。

これは主がかつて、モーセによつ

てイスラエル十二部族に与えると主が約束されたところに基づいています。民数記 34 章を見ますと、北の境や南の境は同じところにあります。しかし、ここで大きな違いは、ガド、ルベン、マナセ半部族の二部族半が、ヨルダン川東岸に相続の地が割り当てられているけれども、ここではそれがなく、全てヨルダン川の西岸にあるということです。思い出していただきたいのですが、彼らはモアブの平原のところまで来た時に、こちらが放牧にはとても適している地であると言って、モーセを悩ませました。けれども、彼らが約束の地に渡る時に共に戦うことを誓ったので、それで東岸にも割り当て地を与えられたのです。しかし、イスラエルの歴史は、彼らがシリアなどによって攻められ、アッシリヤによって初めに捕囚の民として捕え移されていったことを知っています。彼らが主の約束の近くまで来たのに、そこまでいかなくとも自分は間に合っていると思ったのです。主の約束に近づいて、その全てを受け取る前に今の自分に満足することの危険がありますね。しかし、主はその失敗を再び踏み直してください。

47:22 あなたがたと、あなたがたの間で子を生んだ、あなたがたの間の在留異国人とは、この地を自分たちの相続地として、くじで割り当てなければならない。あなたがたは彼らをイスラエル人のうちに生まれた者と同じように扱わなければならない。彼らはイスラエルの部族の中であって、あ

あなたがたといっしょに、くじで相続地の割り当てを受けなければならない。47:23 在留異国人には、その在留している部族の中で、その相続地を与えなければならない。・・神である主の御告げ。・・

在留異国人もまた、そこにいるということだけで、イスラエルの相続にあずかることができます。これはとても大切です、血縁関係ではなく、神はイスラエルの約束の中にいるという信仰の決断を祝福してくださっているのです。私たちは、何をもって聖くなれるのか？それは、自分が神の言われているところに自分を置いていることによってそうなのです。聖霊が上から与えられて、それで、神の聖さが自分から現れるのです。

## 2B 割り当て 48

### 1C 十二部族 1-29

48:1 部族の名は次のとおりである。北の端からヘテロンの道を経てレボ・ハマテに至り、ハマテを経て北のほうへダマスコの境界のハツアル・エナンまで・・東側から西側まで・・これがダンの分である。48:2 ダンの地域に接して、東側から西側までがアシエルに分。48:3 アシエルの地域に接して、東側から西側までがナフタリに分。48:4 ナフタリ地域に接して、東側から西側までがマナセに分。48:5 マナセ地域に接して、東側から西側までがエフライムに分。48:6 エフライム地域に接して、東側から西側までがルベンの分。48:7 ルベン地域に接して、東側から西側までがユダに分である。

北から南へと、十二部族に相続地が割り当てられていきます。ユダの部族が相続地の中央部分になるように割り当てられています。なぜなら、君主はユダ族のダビデから出ており、メシヤはユダの獅子と呼ばれているからです。

48:8 ユダ地域に接して、東側から西側までが、あなたがたのささげる奉納地となる。その幅は二万五千キュビト、その長さは東側から西側にかけて部族の割り当て地の一つと同じである。聖所はその中央にある。48:9 あなたがたが主にささげる奉納地は、長さ二万五千キュビト、幅二万キュビトである。48:10 祭司たちへの聖なる奉納地は次のとおりである。北側は二万五千キュビト、西側は一万キュビトの幅、東側は一万キュビトの幅、南側は二万五千キュビトの長さである。主の聖所はその中央にある。48:11 この区域はツアドクの子孫の聖別された祭司たちのものである。彼らは、イスラエル人が迷い出たときいっしょに迷い出たレビ人とは異なり、わたしへの任務を果たしている。48:12 彼らの地域はレビの部族の地域に接し、奉納地のうちでも最も聖なる地である。48:13 レビの部族の分は、祭司たちの地域に接して、長さ二万五千キュビト、幅一万キュビトである。すなわち、全体の長さは二万五千キュビト、幅は一万キュビトである。48:14 彼らはそのどの部分も、売ったり取り替えたりしてはならない。その初めの土地を手放してはならない。主への聖なるものだからである。

先に話されていた、聖なる奉納地を中心とした土地、その北にあるレビ人の土地であります。ここでは、イスラエル人が迷い出た時にいっしょに迷い出たレビ人とありますが、おそらくエリの祭司の息子のことではないかと思われれます。また他にもレビ人で迷い出た人たちはいます。彼らは、自分たちが主への聖なる者となっているのに、その与えられている賜物を主のために用いるのではなく、この世に使ってしまうことがあります。それが、土地を手放してしまうということです。

48:15 幅五千キュビト、長さ二万五千キュビトの残りの地所は、町の一般用であり、住まいと放牧地のためである。町はその中央に建てられなければならない。48:16 その大きさは次のとおりである。北側は四千五百キュビト、南側は四千五百キュビト、東側は四千五百キュビト、西側は四千五百キュビトである。48:17 また、町の放牧地は、北へ二百五十キュビト、南へ二百五十キュビト、東へ二百五十キュビト、西へ二百五十キュビトである。48:18 聖なる奉納地に接する残りの地所の長さは、東へ一万キュビト、西へ一万キュビトである。それは聖なる奉納地に接している。そこから収穫した物は町の働き人の食物となる。48:19 その町の働き人は、イスラエルの全部族から出て、これを耕す。48:20 奉納地の全体は二万五千キュビト四方であり、あなたがたは、聖なる奉納地と町の所有地とをささげることになる。

聖なる奉納地の南に接して、そこが民の住むところとなります。放牧地がその周囲にあり、その回りは畑になっています。そして町自体は東西南北の正方形です。さらに、この土地と先の聖なる奉納地とその北に面するレビ人の土地を合わせると、ちょうど正方形になります。神殿の中でも正方形の至聖所などが出て来ましたが、ここも正方形であり、そして新しいエルサレムは立方体としてその都が出て来るのです。

48:21 聖なる奉納地と町の所有地の両側にある残りの地所は、君主のものである。これは二万五千キュビトの奉納地に面し、そこから東の境界までである。西のほうも、その二万五千キュビトに面し、そこから西の境界までである。これは部族の割り当て地にも接していて、君主のものである。聖なる奉納地と宮の聖所とは、その中央にある。

この正方形の土地の左右は君主の土地であり、言い換えれば君主の土地の真ん中に礼拝が中心となっており、そしてイスラエルの十二部族の住むエルサレムの町が入っているということです。君主の心がここに表れています。主を第一として、そしてその祝福はイスラエルに豊かに与えられています。

48:22 君主の所有する地区の中にあるレビ人の所有地と、町の所有地を除いて、ユダの地域とベニヤミンの地域との間にある部分は、君主のものである。48:23 なお、残りの部族は、東側から西側までがベニヤミンの分。48:24 ベニヤミンの地域に接して、東側から西側までがシメオンの分。48:25 シメオンの地域に接して、東側から西側までがイッサカルの分。48:26 イッサカルの地域に接して、東側から西側までがゼブルンの分。48:27 ゼブルンの地域に接して、東側から西側ま

でがガドの分。48:28 ガドの地域に接して南側、その南の境界線はタマルからメリバテ・カデシュの水、さらに川に沿って大海に至る。48:29 以上が、あなたがたがイスラエルの部族ごとに、くじで相続地として分ける土地であり、以上が彼らの割り当て地である。..神である主の御告げ。..

こうやって、かつて北イスラエルの十部族がユダとベニヤミンと共に一つになっている姿がありません。これもまた主が約束されたことです。エゼキエル書 37 章に、二つの杖を一つにする幻がありましたが、主が分裂していたものを、礼拝を中心にして一つにしてくださったのです。

### 2C 町 - 「主はここにおられる」 30-35

48:30 町の出口は次のとおりである。北側は四千五百キュビトの長さで、48:31 町の門にはイスラエルの部族の名がつけられている。北側の三つの門はルベンの門、ユダの門、レビの門である。48:32 東側も四千五百キュビトで、三つの門がある。ヨセフの門、ベニヤミンの門、ダンの門である。48:33 南側も四千五百キュビトの長さで、三つの門がある。シメオンの門、イッサカルの門、ゼブルンの門である。48:34 西側も四千五百キュビトで、三つの門がある。ガドの門、アシェル門、ナフタリの門である。48:35 町の周囲は一万八千キュビトあり、その日からこの町の名は、『主はここにおられる。』と呼ばれる。」

それぞれの方角にイスラエル部族の三つの名が付いています。荒野の旅の時もそうでした。三つの部族がそれぞれの方角の宿営していました。そして新しいエルサレムにおいても、都には十二部族の名が付いています。そして土台の十二の石に、十二使徒の名が掘られています。つまり、教会です。つまり、イスラエル十二部族によって主ご自身を知ることができる。この中に主がおられる、ということでもあります。私たちは、イスラエルが神の証しであることを知っています。そして教会は、イエス・キリストの証しであることを知っています。

「主はここにおられる。」ヤハウエ・シャマではありますが、これがエゼキエル書全体のテーマでしょう。主がおられるということ、主のご臨在が無くなってしまったということ。それこそが、エゼキエルの預言の悲劇でした。今、バビロンの地で神殿が破壊された話を聞いて、主がおられるという臨在がなくなってしまった今、主が再び彼らのために町を建て、そこをご自分が住まれるところとしてくださいます。